

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	国際文化演習		
英文授業科目名	Seminar in Intercultural Studies		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	3(4)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三浦 清美		
居室	東1-508		

公開E-Mail	授業関連Webページ
miura@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題：ヨーロッパ文化の根幹としてのキリスト教の意義を理解する。 (b) 達成目標：「世界」という言葉によって君たちは何をイメージするでしょうか。回答はさまざまだと思いますが、私たちが「世界は」という言葉を口にするとき、独自の伝統を負った（民族的な）集団が衝突と融和を通じて互いの文化所産を交換しあう場をイメージすることが多いのではないのでしょうか。わが国の近くでは、中国がそのような場であり、私たちもその一角を形成してきたわけですが、現代の世界をよくも悪しくもリードしてきたヨーロッパがそうした場をはじめてもらったのは、ローマ帝国においてでした。ローマ帝国はさまざまな伝統を融合してひとつの共有する価値観を生み出す巨大な坩堝でした。そうして形成された代表的な価値観にキリスト教がある。この授業では、キリスト教の成立とローマ帝国支配の相関関係を通して、ひとつの文明が形成されるダイナミズムを検証したいと思います。 授業が一通り終わったあとで、新聞の国際面にきちんと目を通す気持ちになってくれればこの授業の目標は到達したことになると思います。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし。</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>特になし。</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【教科書等】

教科書：弓削達著『世界の歴史5 ローマ帝国とキリスト教』河出文庫
参考書：『ローマ皇帝崇拜とキリスト教の迫害』日本基督教団出版局社会科学叢書

【授業内容とその進め方】

第1 - 4週 ローマ帝国における文明の融合 映画『ベン・ハー』を題材に
第5 - 7週 多神教と一神教の違い
第8 - 10週 ギリシア・ローマ的伝統
第11 - 12週 ヘブライ的伝統
第13週 まとめ ローマ帝国におけるギリシア・ローマ的伝統とヘブライ的伝統の融合

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

1. 一神教とは何かを理解している。具体的に多神教との違いを理解することができる。
2. 一神教文化がどのような形で現代の国際システムのなかで生きているかを理解している。
3. 以上のことを、具体的な歴史事象を取りあげてきちんとした日本語で説明できる。

最低基準：きちんとした日本語で自らの考えをまとめ、表現できること。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。
金曜日 18:00～19:30

【学生へのメッセージ】

自分の問いをもてるようになってください。その一助になればよいと考えています。

【その他】